

巻頭のこ と ば

平成22年度に執行いたしました本市行政事務について、その概要を報告いたします。

我が国は、年度末も差し迫った3月に未曾有の大震災に見舞われ、各地で甚大な被害にあいました。国内はもとより世界各国からの支援を受けて復興を目指しているところですが、今なお先の見えにくい状況でございます。また、本市におきましても、年末から年明けにかけて想定外の大雪が降りつづき、倒木等の被害が広範囲にわたり、さらに一部地域の停電や公共交通機関の運休等住民生活に多大な影響を及ぼしました。

そのような中、私たちの地方を取り巻く環境も大きく変わろうとしておりますが、今後も国の動向を注視しながら的確に変化に対処し、市民の立場と視点に立って施策を展開してまいりたいと考えております。

平成22年は「新米子市誕生5周年」を始め「米子市・東草市姉妹都市提携15周年」、「中海・宍道湖ラムサール条約登録5周年」等のメモリアルイヤーでございました。

中でも、皆生温泉が開湯110周年を迎えたことを記念して皆生海浜公園に「潮風の足湯」を設置するとともに「素鳳ふるさと館」をリニューアルし皆生温泉の魅力アップを図ったところでございます。

また、JT米子工場跡地に電気自動車開発・製造の「ナノオプトニクス・エナジー社」、二本木に「ニッポン高度紙工業」と相次いで大型企業誘致が決定したところでございます。

今後も、持続可能な財政基盤の確立に向けたこれまでの行財政改革をさらに推し進め、活力あるまちづくりと財政健全化の両立をめざした新たな行財政改革に取り組んでいくとともに、鳥取県西部圏域、中海圏域の中心的な役割を担う都市として、関係自治体との広域的な連携・協力関係の強化を図り、圏域全体のさらなる発展をめざした取り組みを推進していく決意でございます。

そして、市議会議員各位のご指導をはじめ、市民の皆様のご意見とご協力をいただきながら「生活充実都市・米子」を目指し、引き続き市政運営にまい進する所存です。

どうか、一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年8月

米子市長 野 坂 康 夫